（1）　明治20年創刊　第35573号（第3種郵便物認可）　THE JOMO SHIMBUN　（日刊）

上毛新聞

発行所（〒371）前橋市古市町1－50－21
上毛新聞社
電話 代表（0272）51－4341（代表）
営業（6時以降）・休日直通
編集局 51－0345・4344
広告 51－8800・8801
（駅売） 52－3545（広告） 51－4347
（郵便） 51－0345（発送） 51－4343
© 上毛新聞社 1994

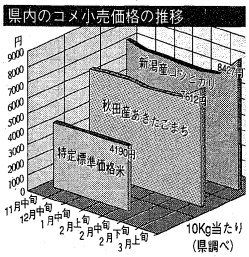
買いだめ品薄招く

県、冷静な行動呼び掛け

コメ急騰 国産は2割高

店頭調査

輸入米の販売などによるコメ流通市場の混乱に伴い、県内に出回っている国産銘柄米の売価も急上がりと騰貴している。こが八日、県の店頭調査で明らかになった。二月下旬と比べ、新潟産コシヒカリの一キ当たり平均売価は二千二百円と二十七円上昇したほか、秋田産あきたこまちは二千一円と五十二円上がっている。店頭では品薄が目立ち、国産米を置いている小売店舗は全体の四割以下にとどまった。消費者の買いだめが混乱に拍車をかけているとみられ、事態を重くみた県は県民に冷静な消費行動を呼び掛けている。



店頭調査は県の物価安定対策室の一環で調査員が今月七日、前橋、高崎市内の四十店舗を対象に小売価格の実態などを調べた。新潟産コシヒカリは本作の影響で値上がり名、小売りとたアレンジ米や中国産米は千九十八・五千七百八十二円と沈静化しているが、前回調査（二月二十四日～三月一日）から一挙に三割近く高騰。中には一万円を超えるケースもみられた。秋田産あきたこまちも同様で、調査を始めた昨年十月下旬当時と比べ三・三倍の値上がりとなった。

店頭に国産米と輸入米をともに置いているのは四分の一に満たない。コメ流通市場は、安定供給を最優先するとの政府の輸入米も高い人気を集める反面、国産米は品切れの店が八割を占めるなど、極端な二極化現象が浮き彫りになった。

また、輸入米の十八店、十